漫遊記

～気の向くままに遊覧する～

コンセプト

気の向くままに各地を旅するがごとく、大宮の街を「漫遊」する。
これが大宮駅東側市街地の回遊コンセプトである。

大宮は古くは氷川神社の鳥居前町、中山道の宿場町として栄えた。現在は交通結節点、郊外住宅地として多くの人が利用する場所である。氷川神社と参道を中心とした豊かな緑。一の宮通りや南銀座通り、路地の商業・文化の賑わい。

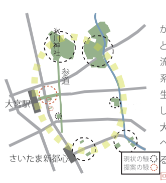
本提案では、街の回遊性を高めることによって、地域に暮らす人々がこれら「大宮らしさ」に触れる機会が高まり、そのことがシビックプライドを育て、大宮の魅力を底上げする重要な一手になると考える。

そこで、駅東側市街地の「大宮らしさ」をたどれる道路や空地の一部を、車中心から人中心の場所に転じてネットワーク化するような諸整備と推進方策を提案する。

漫遊戦略

推進戦略の柱において、「①まちの中での回遊性を高める」、「②まちの滞在性を高める」より、漫遊戦略を考える。　漫遊戦略は 3 つの「つなぐ戦略で大宮駅東側の一体感を回遊性を高める。滞在性を高めた場所をつなぐことで、回遊性のある大宮を実現する。

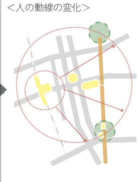
緑をつなぐ


氷川神社
参道
大宮駅
さいたま新都心
現状の緑
提案の緑

大宮駅東側には豊かな緑が広がっている。見沼田圃や氷川神社とそれにつながる参道。荒川の支流である芝川が流れ、豊かな生態系が形成されている。この貴重な生物多様性のある環境は「大宮らしさ」の 1 つである　本提案では、大宮駅東側において、オープンスペースやみちを積極的に緑化する。それにより、みどりを繋げ、回遊性を高める。

大宮らしさをつなぐ

＜人の動線の変化＞



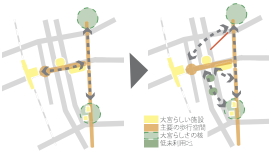
駅前の今ある回遊性を広範囲に

現状として、駅前のみ歩行者の量（通行量、密度、滞留時間等）が多い。駅から徒歩 5 分圏内は路面店が多く、商業空間が充実し多様性がある。そのため、商業界隈では賑わいがあり回遊性が高い。

しかし、一歩引いて俯瞰的な目で見たときに氷川の社や図書館、区役所といった大宮らしさを形成する地域施設は歩行者の量が少ない。

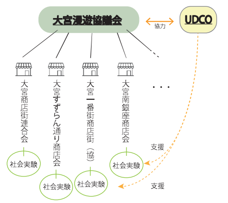
そのため、駅前の賑わいを氷川の社と地域施設を中心に広げて漫遊させたくなるように整備し、更に広域にわたって回遊性を高める。

＜漫遊させるための整備計画＞


大宮らしい施設
主要の歩行空間
大宮らしさの核
低未利用地

東西軸と参道をより魅力的な道にする。　低未利用地を整備して滞留させる。

人をつなぐ


大宮漫遊協議会
協力
UDCO
大宮商店街連合会
大宮すずらん通り商店会
大宮一番街商店街（協）
大宮南銀座商店会
・・・
社会実験
社会実験
社会実験
社会実験
支援
支援

①エリアマネジメント体制をつくる

現在大宮にある商店会や自治会、組合などが一体的に動けるような体制づくりを行う。各団体を統一するように「大宮漫遊協議会」を設置し、UDCO と協力しながらエリアマネジメントを行っていく。

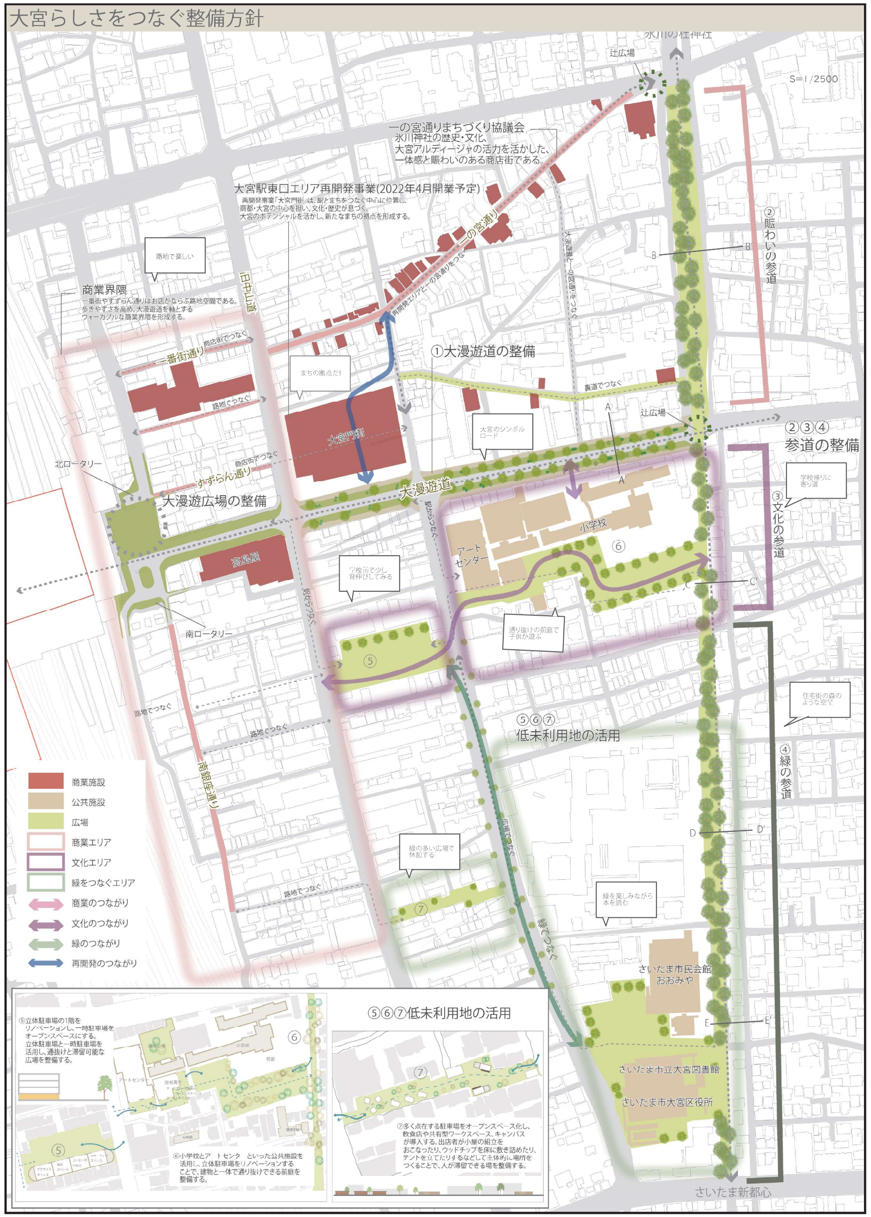
②IT を利用した交通のマネジメント

MaaS（マース：Mobility as a Service）などの IT を用いて、都市の情報をデータ化し、その情報をもとに交通のマネジメントを行うことでより利便性が高く、ウォーカブルなまちを形成することができる。

③UDCO による社会実験の支援

現在各団体が各々で行っている社会実験を UDCO が支援し、統括して行うことでより一体的なまちづくりができる。

大宮らしさをつなぐ整備方針


氷川の杜神社
辻広場
S=1/2500
一の宮通りまちづくり協議会
氷川神社の歴史・文化、
大宮アルディージャの活力を活かした、
一体感と賑わいのある商店街である。
大宮駅東口エリア再開発事業(2022年4月開業予定)
再開発事業「大宮門街」は、駅とまちをつなぐ中心に位置し、
商都・大宮の中心を担い、文化・歴史が息づく、
大宮のポテンシャルを活かし、新たなまちの拠点を形成する。
一の宮通り
再開発エリアと一の宮通りをつなぐ
大漫遊道と一の宮通りをつなぐ
路地で楽しい
旧中山道
商業界隈
一番街やすずらん通りはお店がならぶ路地空間である。
歩きやすさを高め、大漫遊道を軸とする
ウォーカブルな商業界隈を形成する。
商店街でつなぐ
一番街通り
路地でつなぐ
まちの拠点だ!
①大漫遊道の整備
裏道でつなぐ
大宮門街
大宮のシンボルロード
辻広場
B
B'
②賑わいの参道
A
A'
②③④
参道の整備
学校帰りに寄り道
③文化の参道
北ロータリー
商店街でつなぐ
すずらん通り
大漫遊広場の整備
大漫遊道
駅からつなぐ
小学校
アートセンター
⑥
高島屋
学校前で少し背伸びしてみる
C
C'
南ロータリー
通り抜けの前庭で子供が遊ぶ
⑤
路地でつなぐ
路地でつなぐ
⑤⑥⑦
低未利用地の活用
住宅街の森のような空間
④緑の参道
南銀座通り
広場でつなぐ
D
D'
緑の多い広場で休憩する
緑を楽しみながら本を読む
路地でつなぐ
⑦
緑でつなぐ
さいたま市民会館おおみや
E
E'
さいたま市立大宮図書館
さいたま市大宮区役所
さいたま新都心
商業施設
公共施設
広場
商業エリア
文化エリア
緑をつなぐエリア
商業のつながり
文化のつながり
緑のつながり
再開発のつながり
⑥
小学校
校庭
アートセンター
空地再生
⑦
⑤

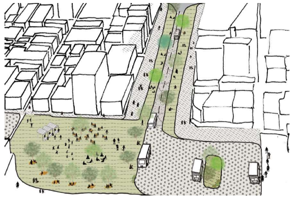
⑤⑥⑦低未利用地の活用

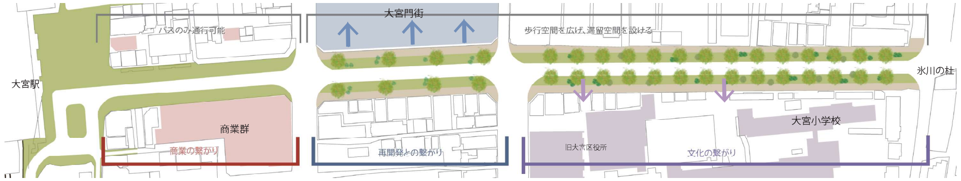
⑤立体駐車場の1階をリノベーションし、一時駐車場をオープンスペースにする。立体駐車場と一時駐車場を活用し、通抜けと滞留可能な広場を整備する。

⑥小学校とアートセンターといった公共施設を活用し、立体駐車場をリノベーションすることで、建物と一体で通り抜けできる前庭を整備する。

⑦多く点在する駐車場をオープンスペース化し、飲食店や共有型ワークスペース、キャンパスが導入する。出店者が小屋の組立をおこなったり、ウッドチップを床に敷き詰めたり、テントを立てたりするなどして主体的に場所をつくることで、人が滞留できる場を整備する。

①大漫遊




大宮駅
バスのみ通行可能
商業群
商業の繋がり
大宮門街
再開発との繋がり
歩行空間を広げ、滞留空間を設ける
氷川の杜
旧大宮区役所
大宮小学校
文化の繋がり

大漫遊広場の整備

大宮駅東口の駅前広場を「大漫遊広場」と名付ける。

交通の結節点を担う大宮駅の駅前広場として、多くの人が利用できる広場を整備した。

現状の車中心の駅前広場に対して、人中心の多くの人が滞留できる駅前広場である。

また、歩行者中心の駅から大宮駅と大漫遊道のモールを繋ぐ重要な役割を果たす。

以下の整備計画のもと駅から大漫遊道まで車と交わることない。

そのため、歩行者にとって安全で快適な空間を整備し漫遊しやすくする。

①北ロータリーと南ロータリーを設ける

ロータリーをふたつ設ける事によりモール化された大漫遊道の整備計画でも北銀座や南銀座の荷捌き車の利用を可能とし、今ある商業としての賑わいを損なわないようにしている。

北ロータリーではタクシーに乗れ、南ロータリーにバス停を集中させる。待っている人が多くいるため、大漫遊広場では賑わいを生みやすい場所となる。

②駅から大漫遊道までシームレスな空間を形成する

シームレスにすることでスムーズに大漫遊道へ歩行者を促し、大宮駅周辺の回遊性を高める。

大漫遊道の整備

参道と駅につなげているシンボルとなる道を整備する。東西軸の歩道幅員を広げ、歩行者の活動を増やすことで、ウォーカブルな漫遊したくなる空間を再構築する。
通り全体を通して街路灯や並木の設置、民地を含めた舗装の統一と誘導し、シンボル性を高めシビックプライドを育てる。
照明ポールや並木のイルミネーション、広場のともりや店からの光により美しい景観を創出する。

商業のつながりのエリア

南銀座通りや北の商業群を参道につなげている。

商業のつながりのエリアを公共交通のみ通らせる事により、

歩行者が気の向くままに歩きやすくなっている。

かつ、それにより周りの店はマルシェ等のイベントを開催できる。

再開発のつながりのエリア

再開発された施設である大宮門街と参道や駅をつなげている。

大宮門街は 2022 年に開業し、人々が集まる拠点になると期待されている。

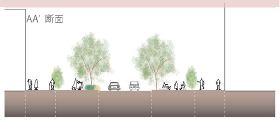
大宮門街を大漫遊道につなげ、駅から漫遊して大宮門街に行く道を整備する。

文化のつながりのエリア

学校が周りに多くあるエリアであり、

その特徴を活かした活動を多く行う

AA′ 断面



大漫遊道による商業界隈への影響
東口駅前の商業界隈は一番街やすずらん通りにお店がならぶ独特な雰囲気を醸し出した路地空間である。
現状では通過する人と滞留する人が交錯して、回遊の雰囲気が損なわれている。
そこで、通過する人を大漫遊道にも漫遊させることにより、各路面店が滞留しやすい店先を確保する。
結果として界隈内の歩きやすさを高め、大漫遊道を軸とするウォーカブルな商業界隈を形成する。

氷川参道のエリアをつなぐ

参道全体

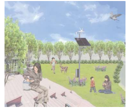
氷川神社の参道を 3 つの異なる特徴をもったエリアで分けることで、歩いて楽しい参道を実現する。
現在の氷川神社の参道は南北2㎞の日本で一番長い参道であり、大宮における貴重な緑の空間である。
しかし、参道の端から端まで歩いて30分ほどかかるため、一様な緑の空間では飽きてしまう。
そこでみどりの参道、文化の参道、賑わいの参道の 3 つのエリアに分けることで、人の回遊性を高めることが出来る。
エリアは周りの資源や活動とのつながりを考えて分類した。

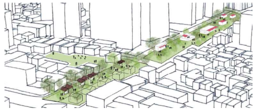
参道とシビックプライドのつながり

参道に集まる場所ができることで、屋外ワークショップが実施される。まちに関心を持ちシビックプライドを育てる場所となる。民間と行政が参道の運営と整備をすることにより、誰もが親しみを持てるようになる。また、参道の管理の一部を住民が行うことで参道を自分の庭の延長線と考え、参道に対しての誇りが生まれる。

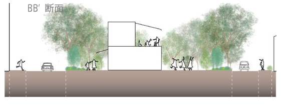
②賑わいの参道

一の宮通りから参道へと導く日常においての賑わいの場である。
PFI方式により民間が積極的に参道で商業や大規模なイベントを行う。
長い参道の中で最も人の賑わうエリアである。





BB′ 断面



歩道と車道の幅員を現状と変更させず、広場にコンテナを置き商業的なにぎわいを作る。

賑わいの参道と大漫遊道のつながり

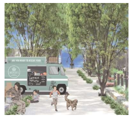
大漫遊道での活気を賑わいの参道に広げる。大漫遊道では分かれていた滞留スペースに対し、賑わいの参道では滞留のスペースやお店が一緒になっている為、より多くの活動が可能になる。

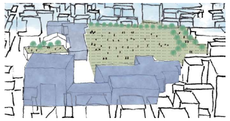
賑わいの参道と一宮通りのつながり

賑わいの参道と一の宮通りは辻広場でつながる。一の宮通りからの賑わいが参道まで広がる。大宮のサッカーチーム「大宮アルディージャ」の施設が辻広場にあるため、大宮アルディージャの活力を利用したイベントなどができる。

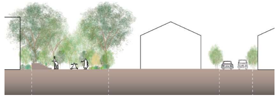
③文化の参道

近隣の学校と連携し文化的イベント、文化的な場づくりを参道に展開する。
現状の別々の団体が参道においてつながることで、文化の発展・継承がされる。





CC′ 断面



もともと車道であった学校側の道を歩行者と自転車のみが通れるようにした。

文化の参道と旧大宮市役所のつながり

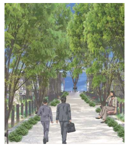
現在では旧大宮区役所はアートセンターとして使われている。
旧大宮区役所でつくられたアートを文化の参道に飾ることにより、多くの人が集まる場所ができる。
また、近隣小学校とともに参道でアートのイベントや展示会をアートセンターがすることで漫遊したくなる空間にする

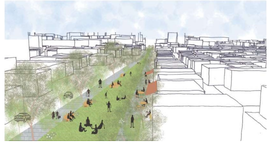
文化の参道と学校とのつながり

近隣に大宮小学校と幼稚園、料理学校があり、文化の参道は教育の場として使われる。
また、大宮の文化継承を行い、シビックプライドを育てる場所となる。
小学校前の参道では、展示するスペースを確保する。
座るスペースが十分にあるため、料理学校での料理をふるまえる場所となり、近隣住民と学生の交流の場となる

④緑の参道

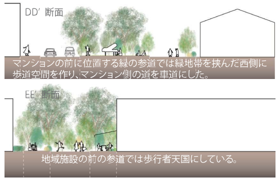
落ち着いた参道空間を整備する。参道の歩行者空間を拡張し、緑を整備して
ベンチなど人が滞留できる空間にする。公共施設を参道につなげる役割も果たす。





DD′ 断面

EE′ 断面



マンションの前に位置する緑の参道では緑地帯を挟んだ西側に歩道空間を作り、マンション側の道を車道にした。

地域施設の前の参道では歩行者天国にしている。

緑の参道と施設とのつながり

緑の参道の横には区役所と図書館があり、地域住民の暮らしを支えている。
誰でもが自由に利用し大きな資源となっている。
緑の参道で図書館で借りた本を緑に囲まれて読むことができる。
図書館には子供連れの親が多く集まり、参道には車が通らないため子供たちが安心して遊べる場所となる。

緑の参道とカフェとのつながり

オープンカフェが緑の参道沿いにあるため、緑の中でゆっくりと過ごすことができる。
かつ、車が通らないため占有許可が下りやすいため、休日などにはオープンカフェが運営される。
それらのオープンカフェのテーブルなどが参道上に広がり開放的で、人々の憩いの空間となる。